

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 24 年 9 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 9 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 4）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 500 m まで上がりました。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映¹⁾を時々観測しました。

11 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口および東側山腹から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。

・地震や微動の発生状況（図 4）

火山性地震の月回数は 193 回（8 月：187 回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした（8 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 3、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。



図 1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（9 月 9 日、稲村岳西山麓遠望カメラによる）
白色の噴煙が火口縁上 500m まで上がりました。

1) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 10 月分）は平成 24 年 11 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地 50m メッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

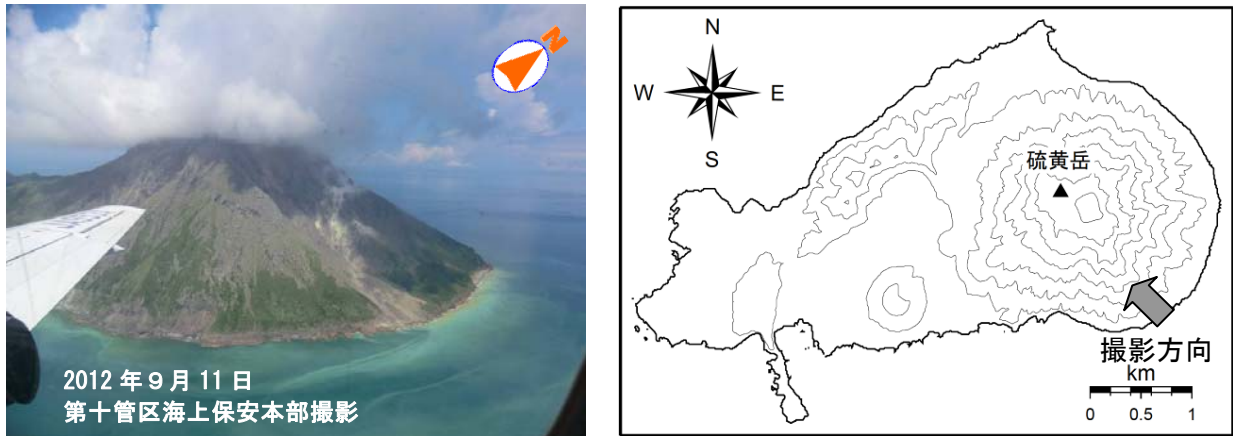


図 2 薩摩硫黄島 硫黄岳周辺の状況

11 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口および東側山腹から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。噴煙活動に特段の変化はありませんでした。

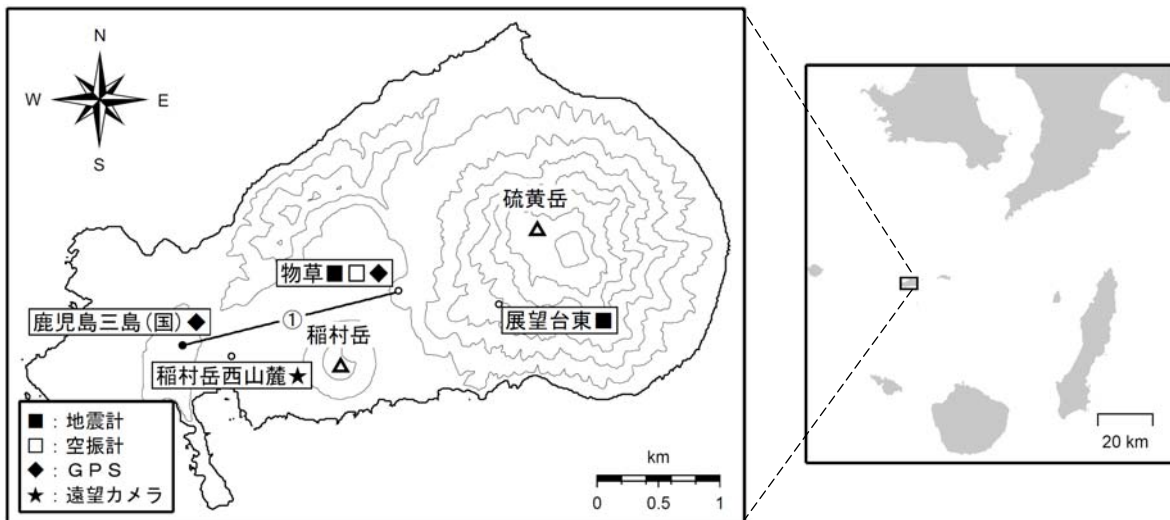


図 3 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院

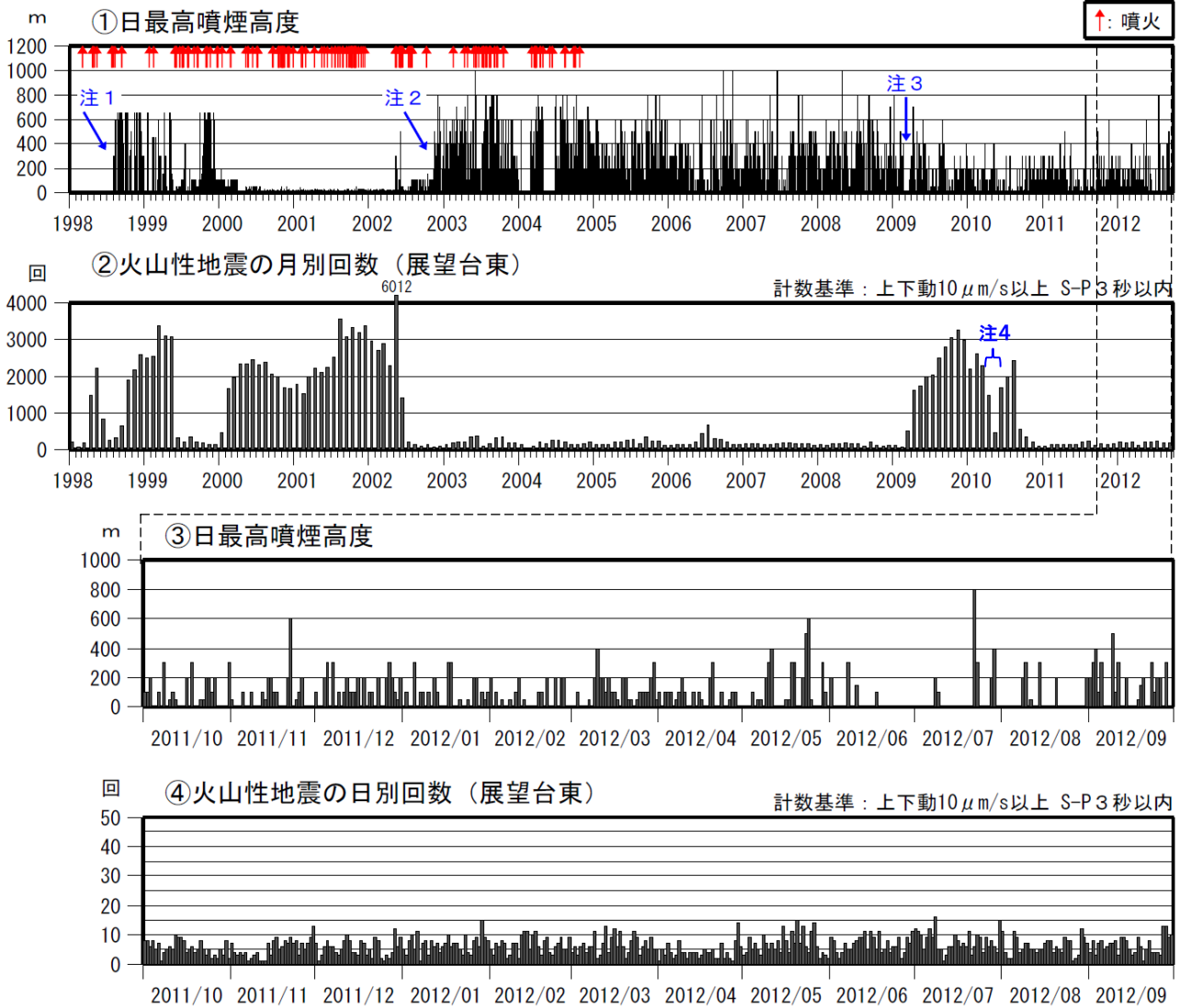


図 4 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2012 年 9 月）

< 9 月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が、最高で火口縁上 500m まで上がりました。
- ・ 火山性地震の月回数は 193 回（8 月：187 回）と少ない状態で経過しました。

- 注 1 1998 年 8 月 1 日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。
 注 2 2002 年 11 月 16 日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。
 注 3 2009 年 2 月 23 日～3 月 21 日 遠望カメラ障害のため噴煙は不明。
 注 4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間がある。

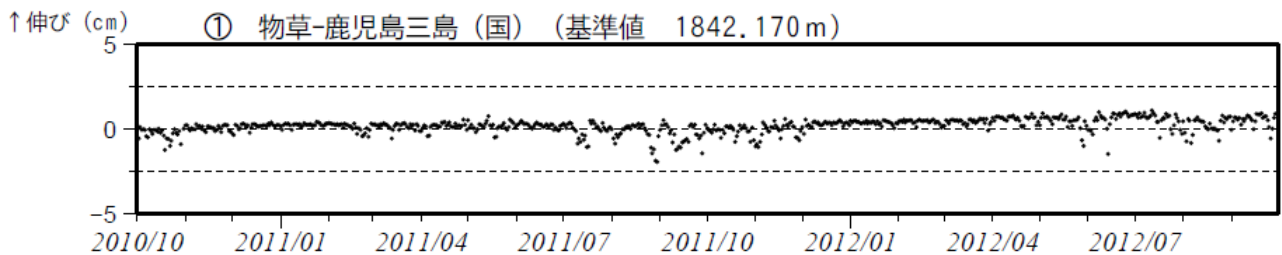


図 5※ 薩摩硫黄島 GPS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2012 年 9 月）

火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。
 この基線は図 3 の①に対応しています。